

ツツジのツツジグンバイに対する アセフェート剤の効果

井上 平 (野菜・茶業試験業久留米支場)

**Effectiveness of acephate spraying for controlling the azalea lace bug,
Stephanitis pyrioides SCOTT on azalea.** Hirata INOUE (Kurume Branch,
National Research Institute of Vegetables, Ornamental plants and Tea, Kurume,
Fukuoka 830)

緒 言

九州地域では、ツツジグンバイによって著しい被害を受けているツツジが各所でみられ、その量も決して少なくない。それらのうちの大部分は、防除が行われないことによると思われるが、筆者は1986年の秋、数回の殺虫剤の散布による防除が行われたにもかかわらず、著しい被害を受けているツツジに遭遇した。このように、殺虫剤を散布しながら被害が生じた原因として、使用する殺虫剤の種類が適当でなかったことが懸念された。そこでこの害虫に対して効力の高い殺虫剤を知るため、同年の12月から室内試験を始めると共に、1987年の夏期に、圃場のツツジに対して数種の殺虫剤の散布を試みた。その結果、アセフェート剤の効力が高いことを見出すことができた。ここでは圃場試験の結果について報告する。

なお、本文に入るに先立ち、圃場へ植えるためのツツジ苗を提供下さった当支場の花き研究室並びに資料を提供下さった北興化学工業株式会社に対してお礼を申し上げる。

材 料 及 び 方 法

供試殺虫剤は、代表的なものとして、M E P 剤、アセフェート剤、D D V P 剤、メソミル剤及び合成ピレスロイド剤の1種 (FCR-1272) の5種類を選んだ。これらのうち、M E P 剤とアセフェート剤は、ツツジのツツジグンバイに対して適用登録を持つ殺虫剤である。

ツツジは、1987年の春、場内の圃場へ植え付けた6年生のヒラドツツジを用い、1殺虫剤1回の散布には3樹を供した。

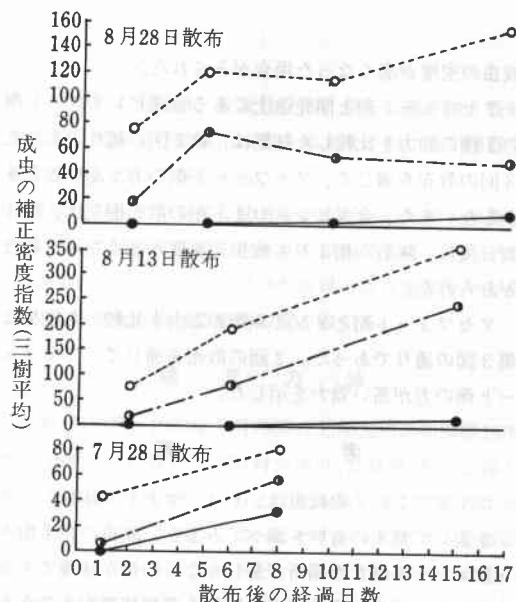
殺虫剤の散布は、ひしやく型の噴霧器を用いて、葉の裏面へもよくかかるように行った。

殺虫剤の効力は、散布前及び散布後に、成虫の全生存

虫数を見取り調査することにより判定した。

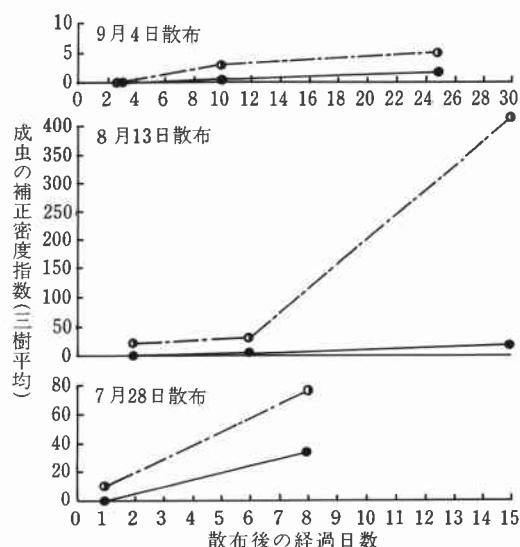
結 果

M E P 剤、アセフェート剤及びD D V P 剤散布の効力を比較した結果は、第1図の通りであった。これら3薬剤の中では、3回の散布を通じて、アセフェート剤が他の2薬剤より高い効果を示した。また、M E P 剤及びD D V P 剤の散布樹では、散布数日後に、無散布樹よりも



第1図 ツツジのツツジグンバイに対する
アセフェート剤、M E P 剤及び
D D V P 剤の効力の比較

- : アセフェート水和剤0.033%
又は0.05%
- : M E P 乳剤0.05%
- : D D V P 乳剤0.05%



第2図 ツツジのツツジグンバイに対する
アセフェート剤と合成ピレスロイド剤
の効力の比較

- ：アセフェート水和剤0.033%
又は0.05%
- ：合成ピレスロイド乳剤
(FCR - 1272) 0.005%

成虫の密度が高くなった場合がみられた。

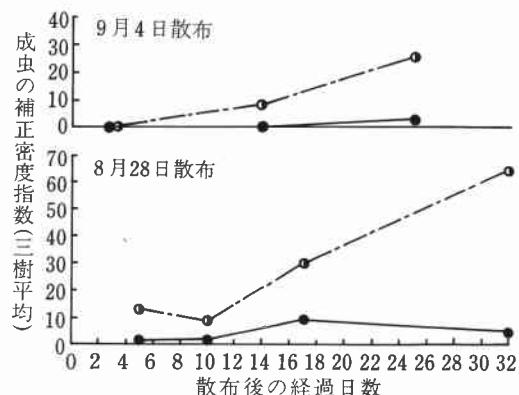
アセフェート剤と開発途上にある合成ピレスロイド剤の1種の効力を比較した結果は、第2図の通りであった。3回の散布を通じて、アセフェート剤の方が高い効力を示した。また、合成ピレスロイド剤の散布樹では、散布数日後に、無散布樹よりも成虫の密度が高くなつた場合がみられた。

アセフェート剤とメソミル剤の効力を比較した結果は第3図の通りであった。2回の散布を通じて、アセフェート剤の方が高い効力を示した。

考 察

ツツジグンバイの成虫は、トラップとして鉢植のツツジを置いて飛来の有無を調べてみると、成虫の発生樹から數メートル離れた場所で毎日かなりの量が捕獲できる。すなわち、成虫はある程度の距離を飛翔移動することが明らかであり、またその期間は5月下旬から11月末頃まで、6月下旬頃の一時期を除いてほとんど連続する（筆者、未発表）。

この試験において、代表的な5種類の殺虫剤の中で、



第3図 ツツジのツツジグンバイに対する
アセフェート剤とメソミル剤の
効力の比較

- ：アセフェート水和剤0.033%
- ：メソミル水和剤0.045%

アセフェート剤が最も高い効力を示したのは、散布後に飛来する成虫を比較的長い期間殺せたことによるところが大きいものと思われる。

アセフェート剤は、1982年にツツジのツツジグンバイに適用登録がなされているが、九州地域ではほとんどの県で使用が奨励されてこなかった。それは、この殺虫剤が他の殺虫剤よりも高い効力を示す場合があることを実証した資料がなかったためであろう。ツツジグンバイの多発生地で、しかも付近から成虫の飛来を受ける条件のある場所では、その防除はアセフェート剤の散布によるのが最良と思われる。

要 摘

殺虫剤の散布による防除が行われながら、ツツジグンバイによって著しい被害を受けているツツジに遭遇し、その原因として使用された殺虫剤の種類が適当でなかつたことが懸念された。そのため、代表的な殺虫剤としてM E P剤、アセフェート剤、D D V P剤、メソミル剤及び合成ピレスロイド剤の1種を選んで、ツツジへ散布しツツジグンバイに対する効力を比較した。その結果、ツツジグンバイの成虫の飛来を受けるような環境条件下では5種類の殺虫剤の中で、アセフェート剤が最も高い効力を示すことを見出した。アセフェート剤を用いることにより、ツツジにおけるツツジグンバイの防除はかなり改善できる見通しが得られた。

(1988年6月14日 受領)